

皮膚科

皮膚科研修（6週間）の目標

①皮疹の診かた②各種検査の手技と意義③皮膚疾患の治療法などの基礎的事項を習得するとともに、指導医と行動をとともにすることにより、皮膚科の意義について理解を深めていただきたい。

皮膚科

当科の特徴

皮膚疾患として蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、乾癬、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡など）、円形脱毛症、白斑症、薬疹などの非腫瘍性疾患以外に色素性母斑、脂肪腫などの良性腫瘍のほか、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫などの悪性腫瘍の治療も行っている。

皮膚科

指導体制

現在、常勤医 1 名と非常勤医 1 名による外来診療と常勤医 1 名による入院診療を行い常勤医 1 名が指導に当たる。基本的には指導医と二人でペアを組み入院患者の主治医となる。

2015年の手術症例数（総数306例）

悪性疾患

有棘細胞癌 8例、基底細胞癌 22例、ボーエン病 4例、日光角化症 12例、
転移性皮膚腫瘍 4例

良性疾患

色素性母斑 48例、脂漏性角化症 76例、血管腫 5例、尋常性疣贅 3例、
神経線維腫 2例、脂腺母斑 2例、リンパ管腫 1例、皮膚線維腫 9例、
乳頭腫 2例、粉瘤 35例、毛細血管拡張性肉芽腫 6例、血管平滑筋腫 2例、
石灰化上皮腫 7例、外毛根鞘腫 1例、いわゆる混合腫瘍 1例、
clear cell acanthoma 1例、ケラトアカントーマ 3例、汗管嚢胞腺腫 2例、
エクリン汗腺嚢腫 1例、エクリン汗孔腫 2例、ケロイド 1例、粘液のう腫 3例、
ガングリオン 4例、形質細胞腫 1例、皮膚リンパ腫 1例、リンパ増殖症 3例、
脂肪腫 5例、平滑筋腫 1例、眼瞼黄色腫 3例、異物 2例、石灰沈着症 2例、
単純黒子 4例、黄色肉芽腫 1例、結節性筋膜炎 1例、マダニ刺症 1例、
クロモミコーシス 1例、モンドール病 1例、その他